

『倫理コンサルテーション ケースブック』

- 編著／堂園俊彦・竹下 啓
- 著者／神谷恵子・長尾式子・三浦靖彦
- 定価 本体 3,600 円＋税 ●B5 判／176 頁 ●医歯薬出版刊
- 2020 年 12 月発行 ●ISBN978-4-263-73198-7



臨床倫理に関する解説書は最近多く出されているものの、倫理コンサルテーションの具体的な活動の詳細についてはほとんど解説されていない。そのなか、2019年3月に出版された『倫理コンサルテーションハンドブック』（“青本”と呼ばれている）では倫理コンサルテーションの準備や総論的に必要な知識が解説されたのに対し、2020年12月に出版されたこの『倫理コンサルテーション ケースブック』（“赤本”と呼ばれている）では個々の事例での具体的な考え方が解説され、各論的な位置づけの著書だと思われる。

本書の構成で特徴的なのは、実際の依頼例が単に並べられているのではなく、典型的な依頼のパターン別に分けられていることだ。各章が「有益な医療・ケアの実施について患者の同意が得られていない場合」「患者が無益(ないしは有害)な医療・ケアを望んでいる場合」「患者の意思決定能力に問題があると思われる場合」などに分かれ、そこに多くの具体的事例の紹介がある。この構成は倫理コンサルテーションチームが参照する際に、とても便利なはずである。また、倫理コンサルテーションでどのような依頼を受けてよいか分からない場合には、これらのタイトルと具体的事例を読むことでイメージできる。

各章には、「考え方」と「注意点」が掲載されていて、立ち上げて間もないチームでは「考え方」で予習をし、熟練のチームでも「注意点」で実践活動を確認することができるようになっている。各章の最後にある「ここがポイント！」はまとまっていて見やすい！ さらに「BOX」や「COLUMN」などで必要な知識がちりばめられている。「ムンテラ」と「ナッジ」「パターンリズム」「カリフォルニアから来た娘症候群」「自発的飲食中止」などは興味深く、勉強させていただいた。

倫理コンサルテーションでは、依頼者の意向が検討内容の方向性におおむね一致する場合にはそれほど問題にはならないものの、そうでない場合には依頼者である医療者や患者・家族に説明し、納得してもらわなければならない。思考過程の論理性と検討内容を表現する力が必要である。それには確かな知識が求められるが、本書“赤本”には前書“青本”とともに豊富な資料が収載されている。依頼内容を検討する際や検討内容を依頼者に返す際に大きな助けとなるであろう。ぜひ、これら二つの書籍を携え、倫理コンサルテーションの活動に果敢に取り組んでいただきたい。

(金田浩由紀／関西医科大学総合医療センター 臨床倫理・合意形成支援センター)